

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 岡山県
都道府県 岡山県
対象地域 新見市
対象品目 水稲



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

2020年センサスによれば、新見市は耕地面積1,249ha、総農家数2,816戸、うち販売農家1,527戸、自給的農家1,289戸が存在する。関係機関、農業者の環境負荷低減への関心は高いが、中干しを延長することで水田からのメタンの排出が削減されることは知られていない。中干し延長は、新規の機械や技術が不要で容易に取り組むことができるため、地域の慣行技術として広く普及することを目指す。また、農業者の減少と高齢化が進む中、農薬散布用ドローンに関心がある農業者が増えており、ドローンによる省力農薬散布技術の普及を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				中干し	除草								
技術名			中干し	農薬散布 (動力噴霧機)									

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				中干	防除								
技術名			中干し 延長	農薬散布 (ドローン)									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	1,182	▶ 1,100	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.2	▶ 50	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.2	▶ 50	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	230	▶ 300	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	7日間程度の中干し	▶ 中干し期間の延長	水田からのメタン排出削減
省力	動力噴霧機を活用した殺虫・殺菌剤散布	▶ ドローンを活用した殺虫・殺菌剤散布	散布作業の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
省力	作業時間	1.6h/1ha	▶ 0.5h/1ha	検証結果を基に設定
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・中干し期間延長は、栽培マニュアルの配布と講習会等で実証結果の説明により啓発を図る。
- ・ドローンを活用した殺虫・殺菌剤散布は、栽培マニュアルの配布と講習会等で実証結果の説明により啓発を図る。また、新見市役所が補助事業でドローン購入を支援し、JAと農業者がドローンによる防除を請け負うことで取組面積を拡大する。

関係者の役割

関係者名	岡山県 (普及組織：新見農業普及指導センター)	JA晴れの国岡山 新見アグリセンター	新見市役所	農業者
役割	コーディネート 中干し期間延長の啓発 技術指導	中干し期間延長の啓発 ドローン散布の請負	中干し期間延長の啓発 ドローン購入支援	講習会等への参加 ドローン散布の請負

その他